

# ドラマティック日本史 第5弾

## 「日本の始まりを探る縄文信仰のミステリー」

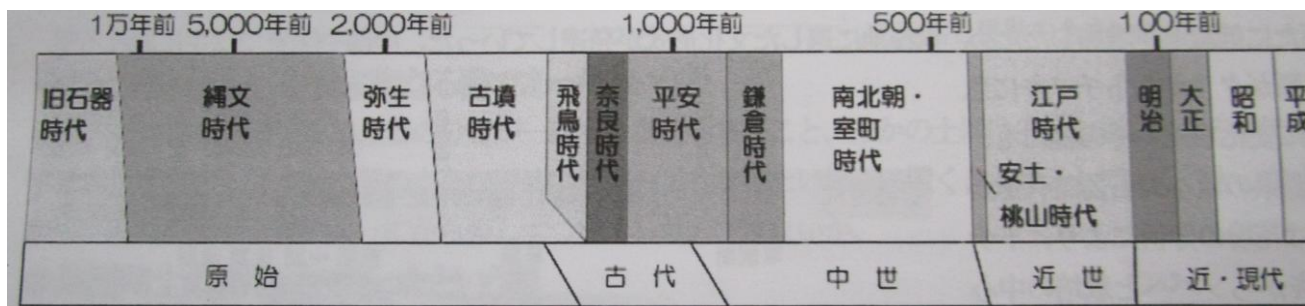


講師：林 和清 先生

日時：4月6日（月）10：00～11：40

### ■縄文時代とは

日本列島において。旧石器時代につづく時代区分。始期は16000年前と考えられている。旧石器時代とは、土器の出現や縦穴住居の普及、貝塚の形式により区分される。終期は地域差が大きいが、約2300年前に定型的水田耕作や金属器の使用を特徴とする弥生文化が登場するころだという説が有力である。



### ■縄文土器

多様な大きさと器種・装飾的な文様などさまざまなものが存在するため、機能や使用される場面も異なったものであると考えられている。

#### ★ミステリーポイント 火焰式土器は何故作られた？

全体の形状が燃え上がる炎を思わせることから火焰式土器と呼ばれ、縄文による装飾は殆ど見られない。

- ◆「火」と「わらび」の生命観を表わした造詣とする説
- ◆燃える水「石油」を運ぶ聖なる器であったという説
- ◆集団同士の贈答品出会ったという説



### ■縄文土偶

縄文時代頃頃の日本列島で作られた土人形を指す。通常は農作物の豊穡を祈る地母神崇拝のための人形と解釈されることが多い。

- ◆用途は生命の再生、神像、精霊の像、呪物、お守りなどといった様々な説が唱えられている
- ◆子供の玩具やお守りであったとする説、破壊することで身体の悪い所の快癒を祈ったとする説、ばらばらになるまで粉碎された土偶はそれを大地にばら撒くことが豊穡の祈念を意味したとする説、縄文人は冬期の太陽の弱まりを恐れ、土偶祭祀は冬を中心に行われたという説などがある。

#### ★ミステリーポイント なぜ土偶は破壊されたのか？

土偶の製作法を分析したところ、作られた地点で既に壊れやすい構造になっていたことがわかっている。一つ種芋をいくつにも割って埋めると収穫が増えるという「豊穡を保証してくれる地母神説」や「身代わりとしての土人形説」「呪人形説」「安産護符説」などが有力説。

「古事記」登場するオオゲツヒメはスサノオに殺されるが、その死体から稲や麦などの穀物や蚕が発生したといわれている。この神話こそ、縄文人は土偶を女神に見立てて、これを破壊することによって作物の豊穡を祈ったことを反映しているのではないのか。

- 縄文の聖地「縄文神社」は縄文遺跡と神社が重なっている。数千年もの間、人々の「祈りの場所」であり続けているという、奇跡の様な場所である。